

I 基礎看護学実習

[2単位 90時間]

目的

対象に応じた看護の実践に必要な基礎的能力を習得する。

目標

- 1 受け持ち対象に看護過程を展開できる。
 - (1) 対象の状態をアセスメントできる。
 - ア 意図的な質問法とフィジカルイグザミネーションを用いて情報を収集できる。
 - イ 収集した情報をゴードンの機能的健康パターンの項目ごとに整理・分類できる。
 - ウ 身体的・精神的・社会的側面から、疾病や治療が対象に及ぼす影響を考える事ができる。
 - (2) 対象の看護上の問題を明確化できる。
 - (3) 対象の看護上の問題の解決に向けた計画を立案できる。
 - ア 看護問題の優先順位を決定できる。
 - イ 期待される成果を考慮した目標を設定できる。
 - ウ 対象に応じた対策を立案できる。
 - (4) 立案した看護計画を対象の状態にあわせて実施できる。
 - ア 対象の状態から計画の実施が可能であるか推測できる。
 - イ 計画に基づいて対象の状態を捉えながら安全に配慮して実施できる。
 - ウ 計画に基づいて対象の状態を捉えながら安楽に配慮して実施できる。
 - (5) 実施した看護を評価できる。
 - ア 日々の看護実践を振り返ることができる。
 - イ 対象の反応や状態に応じて、看護計画を追加・修正できる。
- 2 援助関係の形成を意識して対象と関わることができる。
 - (1) 対象に関心をよせて関わることができる。
 - (2) 対象の思いや考えをありのままに受けとめることができる。
 - (3) 対象の反応の意味を考えることができる。
- 3 看護学生としての責任ある態度を意識し行動できる。
 - (1) チームメンバーの一員として、報告・連絡・相談ができる。
 - (2) 学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
 - (3) 学習者として約束事を厳守し、状況に合わせて行動できる。(挨拶、言葉遣い、身だしなみ、体調管理)
- 4 生命の尊厳、対象の人権やプライバシーの保護への認識を持ち、倫理的に配慮した態度・行動がとれる。
- 5 看護体験をもとに、学習したことと自己の課題を明確にできる。

実習時期：1年次 11月

実習方法（*詳細は実習要領参照）

- 1 実習施設：病院
- 2 実習内容：患者を受け持ち、看護過程の方法を適用して看護を実践する。

Ⅱ 地域・在宅看護論実習

[2単位 90 時間]

目的

地域で生活するあらゆる健康状態・発達段階にある対象に、生活の場に応じた看護を実践するための基礎的能力を習得する。

目標

- 1 生活の場で看護を必要とする対象の特徴と生活環境を理解できる。
- 2 生活の場で看護を必要とする対象が、健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復及び人生の終末において必要な看護の基礎的技術を習得できる。
- 3 地域住民に対する地域看護と在宅看護の役割と機能を理解できる。
- 4 地域での暮らしの継続を支援するための社会資源の活用と地域包括ケアシステムにおける関係機関・職種との連携・協働を理解できる。
- 5 地域で生活する対象を支えるための切れ目のない看護活動や保健活動の必要性を理解し、自己の看護観を深めることができる。
- 6 看護学生としての責任ある態度を意識し行動できる。

1) 地域・在宅看護論実習Ⅰ

[1単位 45 時間]

目的

地域で暮らしている人々と接し、生活者としての対象の理解を深めるとともに多様な場における看護の在り方を考える。

目標

- 1 地域における対象の生活環境と健康状態について理解することができる。
- 2 地域での暮らしを継続するために必要な制度や事業の目的や意義を理解することができる。
- 3 地域で暮らす対象の生活の実際を知り、地域・在宅看護の役割と機能を考えることができる。
- 4 地域・在宅看護における、継続看護や保健活動の必要性を考えることができる。
- 5 地域での暮らしの継続を支援するための、地域における関係機関・職種との連携・協働の実際について理解することができる。
- 6 看護学生としての責任ある態度を意識し行動できる。
 - (1) 学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
 - (2) 学習者としての約束を厳守し、状況に併せて行動できる。(挨拶、言葉遣い、身だしなみ、報告・連絡・相談、体調管理)
- 7 生命の尊厳、対象の人権やプライバシー保護への認識を持ち、倫理的に配慮した態度・行動がとれる。
- 8 地域で生活する住民を支えるために必要な看護を考え、自己の課題を明確にできる。

市町村保健センター実習

目的

保健活動を通して、地域で生活するあらゆる健康の状態・発達段階にある住民への看護支援を理解する。

目標

- 1 市町村の概要及び保健センターの役割を理解できる。
 - (1) 市町村の概要とその特性を理解できる。
 - (2) 市町村の健康問題を理解できる。
 - (3) 保健事業の法的根拠及び制度を理解できる。
 - (4) 保健センターの概要を知り、地域における役割と機能を理解できる。
- 2 保健センターで行われている事業の実際を理解できる。
 - (1) 保健事業の対象者の生活環境や健康課題を理解できる。
 - (2) 対象の健康状態及び発達段階にあわせて保健事業が実施されていることを理解できる。
- 3 地域における継続看護の必要性が理解できる。
 - (1) 各関係機関・職種との連携内容と方法を知り、地域における看護職の担う役割を理解できる。
 - (2) 対象の健康の保持・増進を図るために看護が継続されることを理解できる。
- 4 看護学生としての責任ある態度を意識し行動できる。
 - (1) 学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
 - (2) 学習者として約束を厳守し、状況に併せて行動できる。(挨拶、言葉遣い、身だしなみ、報告・連絡・相談、体調管理)
- 5 生命の尊厳、対象の人権やプライバシーの保護への認識を持ち、倫理的に配慮した態度・行動がとれる。
- 6 地域で生活する住民を支えるために必要な看護を考え、自己の課題を明確にできる。

実習時期：1年次 8月～9月

実習方法（*詳細は実習要領参照）

- 1 実習施設：市町村保健センター
- 2 実習内容：地域における保健活動の参加し、地域住民への看護の実際を学ぶ。

通所介護・通所リハビリテーション事業所実習

目的

地域における通所サービスを利用する対象への援助の実際を理解する。

目標

- 1 通所介護や通所リハビリテーション事業所の特徴と役割を理解できる。
 - (1) 通所介護や通所リハビリテーション事業所の目的とサービス内容を理解できる。
 - (2) 通所サービスの利用状況、概要を把握し、その活動状況と利用者のニーズを理解できる。

- 2 通所サービスを利用する対象の健康の保持・増進、生活機能の維持・向上に向けた援助を理解できる。
 - (1) 対象の生活環境や健康状態の程度が日常生活に及ぼす影響を理解できる。
 - (2) 利用者の個別性をふまえた生活の援助の実際を理解できる。
- 3 地域における継続看護の必要性を考えることができる。
 - (1) 家族や多職種との連携方法の実際を知り、地域における看護職の担う役割を考えることができる。
 - (2) 対象の健康の保持・増進、生活機能の維持・向上のための多職種との連携・協働の実際について考えることができる。
- 4 看護学生としての責任ある態度を意識し行動できる。
 - (1) 学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
 - (2) 学習者として約束を厳守し、状況に併せて行動できる。(挨拶、言葉遣い、身だしなみ、報告・連絡・相談、体調管理)
- 5 生命の尊厳、対象の人権やプライバシーの保護への認識を持ち、倫理的に配慮した態度・行動がとれる。
- 6 地域で生活する対象と家族を支えるために必要な看護を考え、自己の課題を明確にできる。

実習時期：1年次 8月～9月

実習方法（*詳細は実習要領参照）

- 1 実習施設：通所介護事業所及び通所リハビリテーション施設
- 2 実習内容：通所サービス事業に参加し、利用者への看護の実際を学ぶ。

学内実習

目的

市町村保健センター実習と通所介護・通所リハビリテーション事業所実習での学びを共有し、地域で生活する対象を支援するために必要な看護について考えを深める。

目標

市町村保健センター実習と通所介護・通所リハビリテーション事業所実習での学びを明確にできる。

実習日：1年次 9月

保健センター実習及び通所介護・通所リハビリテーション実習の両方が終了した後

実習方法（*詳細は実習要領参照）

学内で、個人の考えをまとめたあと、グループワークで意見交換のうえ、教員からの助言を受ける。グループワークや発表を通して学んだこと及び自己の課題をまとめる。

2) 地域・在宅看護論実習Ⅱ(訪問看護ステーション)

[1単位 45時間]

目的

在宅で療養する対象(療養者と家族)と対象をとりまく環境について理解し、対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を習得する。

目標

- 1 訪問看護ステーションの概況及び特徴を知り役割・機能を理解できる。
 - (1) 訪問看護ステーションの沿革、利用の仕組みや手続きを理解できる。
 - (2) 訪問看護ステーションの利用状況、療養者の概況を把握し、その活動状況と訪問看護師の役割を理解できる。
- 2 訪問看護ステーションを利用している療養者と家族の特徴及び生活の現状を理解できる。
 - (1) 療養者の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。
 - (2) 療養者の生活は健康障害や多様な家族関係、価値観により築かれていることを理解できる。
- 3 訪問看護を利用している療養者と家族への援助の必要性と実際を理解できる。
 - (1) 療養者と家族の生活の質の向上やセルフケア能力及び介護能力を最大限に引き出す援助の工夫や配慮を理解できる。
 - (2) 療養者と家族の生活習慣や介護方法を尊重した日常生活援助の実際を理解できる。
 - (3) 看護実践及び日々の気づきを省察し、対象に必要な看護を考えることができる。
- 4 訪問看護を利用している療養者と家族を尊重した援助関係形成の重要性を理解できる。
 - (1) 対象の状態や反応の意味を、健康障害や生活背景、価値観、家族の状況からありのままに理解することができる。
 - (2) 対象の状態や反応の意味をありのままに捉え、自己決定を支援し、価値観を尊重した関りが理解できる。
- 5 訪問看護ステーションを利用している療養者と家族の社会資源の活用と地域包括ケアシステムにおける関係機関・職種との連携・協働を理解できる。
 - (1) 療養者と家族の生活を支える社会資源の活用の実際を理解できる。
 - (2) 在宅看護における関係機関・職種との連携・協働のあり方及び看護師の役割を理解できる。
- 6 看護学生としての責任ある態度を意識し行動できる。
 - (1) 学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
 - (2) 学習者として約束を厳守し、状況に合わせて行動できる。(挨拶、言葉遣い、身だしなみ、報告・連絡・相談、体調管理)
- 7 生命の尊厳、対象の人権やプライバシーの保護への認識を持ち、倫理的に配慮した態度・行動がとれる。
- 8 地域で暮らしを営みながら療養する対象への自己の看護観を深め、必要な看護と自己の課題を明確にできる。

実習時期 : 2年次 5月~10月

実習方法 (*詳細は実習要領参照)

- 1 実習施設 : 訪問看護ステーション
- 2 実習内容 : 訪問看護師に同行し、在宅療養者と家族への援助の見学をとおして、地域(在宅)で療養生活を送る対象への看護の実際を学ぶ。

成人看護学実習・老年看護学実習

成人看護学実習 [2単位 90 時間]

老年看護学実習 [2単位 90 時間]

目的

成人期・老年期にある対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を習得する。

目標

- 1 成人・老年期にある対象の特徴と健康状態に応じた看護を実践できる。
 - (1) 入院し治療を受ける対象の健康状態と経過を、発達段階の特徴とともにアセスメントできる。
 - ア 健康障害と治療・経過に伴う生活機能や身体的状態を、成熟・衰退の特徴とともにアセスメントできる。
 - イ 健康状態と治療に伴う心理的状态を、対象の価値観・判断力とともにアセスメントできる。
 - ウ 健康状態や治療が、生活者としての役割と責任に及ぼす影響をアセスメントできる。
 - (2) 対象の全体像をとらえ、看護上の問題とその要因・誘因を明確にすることができる。
 - (3) 看護上の問題の優先順位を決定できる。
 - (4) 対象がもつ能力を活用し、看護上の問題の解決及び健康の保持・増進をめざした看護計画を立案できる。
 - ア 対象の意思と健康状態を考慮した看護目標の設定ができる。
 - イ 対象のもつ健康の保持・回復あるいは平和な死に資する力を最大限に活用し、個別性のある対策を具体的に立案できる。
 - (5) 立案した看護計画を対象の状態に合わせて、自立を促進することを考慮して安全・安楽に実施できる。
 - ア 対象の状態に合わせて立案した計画が実施可能か判断できる。
 - イ 対象の状態の変化に応じた実施ができる。
 - ウ 自立に向けて対象のもつ能力を最大限に活用した援助が実施できる。
 - エ 対象の特性を踏まえながら、安全・安楽かつプライバシーに配慮した援助を実施できる。
 - オ 対象の意思を尊重し、自己決定を促す支援ができる。
 - (6) 実施した看護を評価できる。
 - ア 日々の看護実践の成果を考察し、計画の追加・修正ができる。
 - イ 看護実践と対象の状態を照合し、看護目標の達成状態の判断と要因分析ができる。
- 2 成人・老年期にある対象の特徴と健康状態を考慮した援助関係の形成ができる。
 - (1) 対象の状態や反応に関心を寄せて関わることができる。
 - (2) 対象の状態や反応の意味を、生活背景や価値観、現在の健康状態から、ありのままに理解できる。
 - (3) 対象が直面している課題にその人らしく向き合えるように支援できる。
- 3 対象の健康管理に必要な保健・医療・福祉システムを理解し、医療チームの一員としての看護師の役割を理解できる。
 - (1) 対象の健康管理に携わる職種の役割と連携・協働の必要性を理解できる。
 - ア 対象の健康状態に応じた継続看護の必要性を理解できる。
 - イ 対象の生活機能や身体的状態に応じて必要な社会資源とその活用方法を理解できる。
 - ウ 対象を取り巻く保健・医療・福祉システムが、多職種連携により機能していることを理解できる。
- 4 看護学生としての責任ある態度を意識し行動できる。

- (1) 学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
- (2) 学習者として約束を厳守し、状況に合わせて行動できる。(挨拶、言葉遣い、身だしなみ、報告・連絡・相談、体調管理)
- 5 生命の尊厳、対象の人権やプライバシーの保護への認識を持ち、倫理的に配慮した態度・行動がとれる。
- 6 看護体験をもとに学びと自己の課題を明確にできる。
 - (1) 発達段階の特徴と健康レベルに応じた看護体験から学んだことを明確にできる。
 - (2) 看護体験における学びから、自己の課題を明確にできる。

実習時期：2年次 5月～10月

実習方法（＊詳細は実習要領参照）

- 1 実習施設：病院
- 2 実習内容：患者を受け持ち、看護過程の方法を適用して看護を実践する。

IV 小児看護学実習

[2単位 90時間]

目的

成長・発達し続ける子どもと家族を理解し、各健康段階に応じた看護を実践するための基礎的能力を習得するとともに、子どもの権利を尊重する態度を養う。

目標

- 1 環境と相互に作用しながら成長・発達する子どもと家族を理解できる。
- 2 小児各期の身体的・精神的・社会的特徴に応じた成長・発達を促すための援助をできる。
- 3 子どもと家族の現状を理解し、健康の保持・増進・回復に向けた援助をできる。
- 4 子どもと家族を尊重した援助関係を形成できる。
- 5 子どもと家族を中心とした保健・医療・福祉・教育システムを理解し、看護の役割を理解できる。
- 6 看護学生としての責任ある態度を意識し行動できる。
- 7 生命の尊厳、対象の人権やプライバシーの保護への認識を持ち、論理的に配慮した態度がとれる。
- 8 子ども観を養うとともに、自己の看護観を深めることができる。

1) 小児看護学実習 I

[1単位 45時間]

目的

子どもと家族の生活を知り、成長・発達しつづける子どもの健康の保持・増進を支援するための援助とその基本的能力を養う。

目標

- 1 子どもの成長・発達と健康状態に応じた日常生活援助について理解できる。
- 2 子どもの生活の場を知り、安心・安全な環境について理解できる。

- 3 子どもと家族の健康の保持・増進に向けた援助を理解できる。
- 4 子どもに関心を寄せ、尊重した関わり、態度について理解できる。
- 5 子どもと家族を取り巻く保健・医療・福祉・教育システムについて理解できる。
- 6 看護学生としての責任ある態度を意識し行動できる。
- 7 生命の尊厳、対象の人権やプライバシーの保護への認識を持ち、倫理的に配慮した態度がとれる。
- 8 子ども観を養うとともに、自己の看護観を深めることができる。

保育所実習

目的

成長・発達している子どもとその養護の理解を深める。

目標

- 1 保育所の役割と機能について理解できる。
- 2 子どもの身体の発育状態と精神・運動機能の発達及び日常生活の自立の状況を理解できる。
- 3 子どもの成長・発達に応じた安全で安心できる環境づくりを理解できる。
- 4 子どもの成長・発達に応じた遊びの特徴を理解できる。
- 5 子どもの成長・発達に応じた基本的生活習慣の自立に向けた援助を理解できる。
- 6 子どもに関心を寄せてかかわることができる。

実習時期：1年次 8月～9月

実習方法（*詳細は実習要領参照）

- 1 実習施設：保育園
- 2 実習内容：健康な子どもを受け持ち、成長・発達に応じた養護と、成長・発達を促進するための保育士のかかわりの実際を学ぶ。

小児専門病院見学実習

目的

疾病あるいは障害により療養している子どもと療養している環境を理解する。

目標

- 1 小児専門病院の役割と機能を理解できる。
- 2 小児専門病院と関係機関との連携を理解できる。
- 3 療養している子どもにとっての遊びや学習の意義を理解できる。
- 4 療養している子どもにとって安全で安心できる環境について理解できる。

実習時期：1年次 9月

実習方法（＊詳細は実習要領参照）

- 1 実習施設：小児専門病院
- 2 実習内容：小児専門病院で臨床講義を聴き、病棟や外来の見学をとおして、長期に療養を必要とする子どもと家族への看護の実際を学ぶ。

学内実習

目的

保育所実習と小児専門病院見学実習での学びから、成長発達を促す援助について考えを深める。

目標

保育所実習と小児専門病院見学実習での学びを明確にできる。

実習日：1年次 9月

保育所実習及び小児専門病院実習の両方が終了した後

実習方法（＊詳細は実習要領参照）

学内で個人の考えをまとめたあと、グループワークで意見交換のうえ、教員からの助言を受ける。
グループワークや発表を通して学んだこと及び自己の課題をまとめる。

2) 小児看護学実習Ⅱ

[1単位 45時間]

目的

疾病あるいは障害をもつ子どもと家族に看護を実践するための基礎的能力を習得する。

目標

- 1 疾病あるいは障害をもつ子どもと家族への援助の必要性和看護の実際を理解できる。
 - (1) 病気や入院が子どもと家族の成長・発達、生活状況に及ぼす影響を理解できる。
 - (2) 病気や入院が子どもと家族の健康状態に及ぼす影響を理解できる。
 - (3) 健康の回復に向けて成長・発達を考慮した看護援助の必要性を理解できる。
 - (4) 子どもと家族の状態・状況に合わせ安全・安楽な看護を実施することができる。
 - (5) 看護実践および日々の気づきを省察し、対象に必要な看護を考えることができる。
- 2 疾病あるいは障害をもつ子どもの成長・発達と状態に応じた小児看護の基礎的技術を理解できる。
 - (1) 子どもの成長・発達と健康状態に応じた日常生活の援助を理解できる。
 - (2) 子どもの成長・発達と健康状態に応じた遊びや学習への援助を理解できる。
 - (3) 子どもの不安や恐怖、苦痛を最小限にする検査・処置・治療時の援助を理解できる。
- 3 発達段階・健康障害を考慮し、子どもと家族を尊重したかかわりができる。
 - (1) 子どもと家族の状態や反応の意味をありのままに理解できる。
 - (2) 子どもに関心をよせて関わることができる。
 - (3) 成長・発達と健康状態に応じたコミュニケーションをとることができる。

- (4) 子どもと家族の反応から、自己の態度が子どもや家族に与える影響を考えてコミュニケーションをとることができる。
- (5) 子どもをひとりの人として尊重し、権利を持つ存在であることを理解できる。
- 4 子どもをとりまく保健・医療・福祉・教育システムを理解し、医療チームの一員として看護師の役割を理解できる。
 - (1) 子どもをとりまく保健・医療・福祉チームの一員であることを自覚し、適切に報告・連絡・相談ができる。
 - (2) 子どもと家族を中心とした保健・医療・福祉・教育機関の連携の実際を理解できる。
 - (3) 社会の変化に応じた小児看護の役割を考えることができる。
- 5 看護学生としての責任ある態度を意識し行動できる。
 - (1) 学習課題の達成に向けて問題意識を持ち、主体的に学習できる。
 - (2) 学習者として約束を厳守し、状況に併せて行動できる(挨拶、言葉使い、身だしなみ、報告・連絡・相談、体調管理)
 - (3) 小児看護に携わる者として必要な態度を身につけることができる。
- 6 生命の尊厳、対象の人権やプライバシーの保護への認識を持ち、倫理的に配慮した態度がとれる。
- 7 看護体験における学びと自己の課題を明確にできる。
 - (1) 小児看護における学びと自己の課題を明確にできる。
 - (2) 看護体験を振り返り、子ども観を意識化できる。

実習時期：2年次 5月～10月

実習方法（*詳細は実習要領参照）

- 1 実習施設：病院
- 2 実習内容：患児(とその家族)を受け持ち、対象理解を深めるとともに、看護師のかかわりの見学及び実施をとおして、看護の実際を学ぶ。

V 母性看護学実習

[2単位 90時間]

目的

周産期における母子及び家族の心身の変化や適応過程を理解し、対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を習得する。

目標

- 1 産褥期の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、対象に応じた援助を理解できる。
 - (1) 産褥日数に応じた全身状態・生殖器の復古状態を観察できる。
 - (2) 全身状態および生殖器復古促進に向けたセルフケアへの支援を理解できる。
 - (3) 産褥日数に応じた進行性変化を観察できる。
 - (4) 母子に応じた最適かつ満足度の高い栄養方法の選択、乳汁分泌促進に向けた支援を理解できる。
 - (5) 褥婦の心理・社会的特徴をふまえた支援について理解できる。
 - (6) 看護実践および日々の気づきを省察し、対象に必要な看護を考える事ができる。
- 2 新生児期の生理的变化や子宮外生活への適応を理解し、対象に応じた援助を理解できる。
 - (1) 新生児の日齢に応じた生理的变化・健康状態を観察できる。

- (2) 胎外生活への適応を促進するための援助を理解できる。
- (3) 看護実践および日々の気づきを省察し、対象に必要な看護を考える事ができる。
- 3 妊娠、出産、育児に関わる援助の方法を理解できる。
 - (1) 妊婦の健康や胎児の成長発達を保持・増進するための保健指導を理解できる。
 - (2) 育児の基本的技術の習得を促すための援助を理解できる。
 - (3) 親役割獲得過程を促進する支援を理解できる。
 - (4) 看護実践および日々の気づきを省察し、対象に必要な看護を考える事ができる。
- 4 対象の特徴を考慮して、援助関係を形成できる。
 - (1) 対象の状態や反応に関心を寄せて関わる事ができる。
 - (2) 対象の状態や反応に応じて、安全・安楽に留意して看護を提供できる。
- 5 対象の健康管理に必要な保健・医療・福祉システムを理解し、医療チームの一員としての看護師の役割を理解できる。
 - (1) 対象の健康管理に関わる職種の役割と連携・協働の必要性を理解できる。
 - (2) 対象を取り巻く保健・医療・福祉チームの機能と母性看護における継続看護の必要性を理解できる。
- 6 看護学生としての責任ある態度を意識し行動できる。
 - (1) 学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
 - (2) 学習者として約束を厳守し、状況に合わせて行動できる(挨拶、言葉遣い、身だしなみ、報告・連絡・相談、体調管理)。
- 7 生命の尊厳、対象の人権やプライバシーの保護への認識を持ち、倫理的に配慮した態度・行動がとれる。
- 8 看護体験をもとに学びと自己の課題を明確にできる。
 - (1) 母性看護における自己の課題を明確にできる。
 - (2) 自己の母性観・父性観を意識化できる。

実習時期：2年次 5月～10月

実習方法（*詳細は実習要領参照）

- 1 実習施設：病院
- 2 実習内容：褥婦と新生児を受け持ち、日々のかかわりをとおして、対象理解と看護の実際を学ぶ。
 - 妊婦の健康診査、保健指導の見学をとおして、健康の保持増進のかかわりを学ぶ。
 - 機会があれば分娩を見学し、産婦の看護の実際を学ぶ。

VI 精神看護学実習

[2単位 90時間]

目的

精神に障害のある対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を習得する。

目標

- 1 社会で生活する精神に障害のある対象を理解できる。
- 2 精神に障害のある対象の身体的・精神的・社会的な健康状態を理解できる。
- 3 精神の健康の保持・増進及び回復過程における援助の必要性を明確にできる。
- 4 精神に障害のある対象の健康状態、生活の場に応じた自立・社会復帰に向けての援助方法を理解できる。
- 5 保健・医療・福祉システムの機能と精神看護の役割を理解できる。
- 6 看護学生としての責任ある態度を意識し行動できる。
- 7 生命の尊厳、対象への人権やプライバシーの保護への認識を持ち、倫理的に配慮した態度・行動がとれる。
- 8 自己の看護観を深めることができる。

病院実習

目的

対象とのかかわりを通して精神に障害のある対象の理解を深めるとともに、健康の保持・増進及び回復過程における必要な援助の実際を理解する。

目標

- 1 精神に障害のある対象の精神状態と行動を理解し、必要な看護を実践できる。
 - (1) 対象がこれまで歩んできた人生に関心を持ち、発症の契機と入院に至った経緯を理解できる。
 - (2) 精神状態を考慮しながら対象の生活状態の情報収集ができる。
 - (3) 疾患・入院・治療が対象の生活に及ぼす影響を理解できる。
 - (4) 対象の持てる力を理解し援助に活かすことができる。
 - (5) 治療的コミュニケーション技法を用いて対象とかわることができる。
 - (6) 看護実践および日々の気づきを省察し、対象に必要な援助を考えることができる。
- 2 発達段階や精神の障害を考慮しながら、対象と援助関係を築くことができる。
 - (1) 精神に障害のある対象の状態や反応に関心を寄せることができる。
 - (2) 自分がとらえた対象の状態や反応の意味を、精神状態とあわせて理解できる。
 - (3) 対象とのかかわりにおける自分自身の行動や感情、思考に気づくことができる。
 - (4) 自分自身の対人関係上の特徴に気づくことができる。
 - (5) 精神に障害のある対象と援助関係を築くために必要な自己の課題を明確にできる。
- 3 対象を取り巻く精神保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割を理解できる。
 - (1) 精神看護における継続看護と社会資源活用の必要性を理解できる。
 - (2) 精神看護における多職種連携・協働の必要性および看護師の役割を理解できる。
 - (3) 精神保健・医療・福祉チームの一員であることを自覚し、適切な報告・連絡・相談ができる。
- 4 看護学生としての望ましい態度が身につけられる。

- (1) 学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
- (2) 精神看護に携わる者に必要な態度を再認識し、身につけることができる。
- 5 生命の尊厳、対象への人権やプライバシーの保護への認識を持ち、倫理的に配慮した態度・行動がとれる。
- 6 看護体験をもとに学びと自己の課題を明確にできる。
 - (1) 看護体験の意味を考察し、精神看護について自己の考えを明確にできる。
 - (2) 看護体験を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。

実習時期：2年次 6月～10月

実習方法（*詳細は実習要領参照）

- 1 実習施設：病院
- 2 実習内容：患者を受け持ち、日々のかかわりをとおして、対象理解を深め、精神に障害のある対象への看護の実際を学ぶ。

自立支援施設実習

目的

精神に障害を持ち地域で生活する人と、その生活を支える自立支援活動の実際を理解する。

目標

- 1 精神に障害を持ち地域で生活する人を理解できる。
 - (1) 利用者の身体的・精神的・社会的な健康状態を理解できる。
 - (2) 利用者の通所の動機および目的を理解できる。
 - (3) 利用者を通して地域での生活について理解できる。
- 2 自立した生活を送るために必要な支援の実際を理解できる。
 - (1) 利用サービス・活動プログラムの目的および内容を理解できる。
 - (2) スタッフの利用者へのかかわり方の実際とその意味を理解できる。
 - (3) 地域における多職種連携の必要性を理解できる。
- 3 看護学生としての望ましい態度が身につけられる。
 - (1) 学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
 - (2) 精神看護に携わる者に必要な態度を再認識し、身につけることができる。
- 4 生命の尊厳、対象への人権やプライバシーの保護への認識を持ち、倫理的に配慮した態度・行動がとれる。
- 5 実習での学びと今後の自己の課題を明確にすることができる。

実習時期：2年次 6月～10月

実習方法（*詳細は実習要領参照）

- 1 実習施設：地域活動支援センター・自立支援事業所
- 2 実習内容：精神に障害をもちながら地域で生活する人とのかかわりをとおして、地域で生活する人とその生活を支える自立支援活動の実際を学ぶ。

学内実習

目的

病院実習と自立支援施設実習での学びを共有し、精神に障害のある対象への支援について考えを深める。

目標

精神看護学実習における対象との援助関係について学びを明確にし、援助関係を築くための自己の課題を明確にできる。

実習日：病院実習と自立支援施設実習の両方が終了した後

実習方法（＊詳細は実習要領参照）

個人の考えをまとめたあと、グループワークで意見交換のうえ、教員からの助言を受ける。
テーマに対する学び及び自己の課題をまとめる。

VIII 看護の統合と実践実習

[2単位 90時間]

目的

修得した看護実践能力を基盤に、医療チームの一員として、対象に必要な看護を総合的にとらえ、実践するための基礎的能力を養う。

目標

- 1 医療チームにおける看護管理の実際を理解できる。
 - (1) 医療チームにおける看護師の役割を理解できる。
 - (2) 病棟看護管理者の役割と機能を理解できる。
 - (3) チームリーダーの役割と連携の実際を理解できる。
 - (4) メンバーの役割と連携の実際を理解できる。
 - (5) 多職種との連携・協働の実際を理解できる。
 - (6) 医療チームを構成するメンバー間の関係形成の重要性を理解できる。
- 2 複数の対象に必要な看護を実践できる。
 - (1) 複数の対象の状態と優先される援助についてアセスメントできる。
 - (2) 看護援助の優先順位を考慮し、実習時間内の援助の計画を立案できる。
 - (3) 対象の状態に応じて、計画を調整することができる。
 - (4) 対象の安全・安楽に配慮し、効率性を考えて援助を実践できる。
 - (5) 対象や状況に応じた看護実践および日々の気づきを省察し、次の状況に活用できる。
- 3 複数の対象の意思・価値観を尊重し、良好な関係を築くことができる。
 - (1) それぞれの対象がおかれている状態やニーズに関心を寄せることができる。
 - (2) それぞれの対象の意思や価値観を尊重し、援助関係を築くことができる。
- 4 看護専門職に必要な態度を意識し行動できる。

- (1) 対象の状況に応じて、看護専門職として適切に報告・連絡・相談ができる。
 - (2) 主体的な自己学習を継続し、学習効果を看護実践に活用できる。
 - (3) 学習者として約束を厳守し、状況に併せて行動できる。(挨拶、言葉遣い、身だしなみ、体調管理)
 - (4) 生命の尊厳、対象の人権やプライバシーの保護への認識を持ち、倫理的に配慮できる。
- 5 看護師に必要な能力と自己の課題を明確にできる。
- (1) 臨床現場での看護実践に必要な能力を明確にできる。
 - (2) 必要な能力につながるための自己の課題を明確にできる。

実習時期：2年次 10月～11月

実習方法（*詳細は実習要領参照）

- 1 実習施設：病院
- 2 実習内容：
 - (1) 管理実習：
病棟管理者及びリーダー・メンバーに同行し、病棟管理や医療・看護チームの一員としての業務の実際を学ぶ。
 - (2) 複数患者の受け持ち実習：
複数(2名)患者を受け持ち、援助の優先順位の決定や時間調整・業務調整の実際を学ぶ。